

小・中学生英語力向上推進事業

明日の授業はこう創ろう！

# 小学校 外国語活動・外国語科 実践ハンドブック

思考力・判断力・表現力等

言語活動



知識・技能

学びに向かう力・人間性等

平成31年3月

青森県教育委員会

## 目 次

1	CAN-DOリストを作成しましょう	1
2	青森県版小学校外国語活動・外国語科 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標	2
3	明日の授業はこう創ろう!!	4
4	実践事例	5
	(1) 聞くこと	
	(2) 読むこと	
	(3) 話すこと（やり取り）	
	(4) 話すこと（発表）	
	(5) 書くこと	
5	参考文献	26

## 【Learning by Doing】

新小学校学習指導要領の告示（2017年3月）により、小学校中学年「外国語活動」、高学年「外国語科」が2020年度から全面実施されます。

移行期（2018～2019年度）においては、新学習指導要領の目標等に理解を深めるとともに、児童が今まで何をどのように学習してきたかを把握した上でLet's Try!・We Can!（新教材）を導入すること、そして新旧の学習指導要領をつなぐ実践を実現する指導の工夫及び指導者の在り方を探ることが必要です。

“Learning by Doing”「やりながら学ぼう」は、John Dewey（アメリカの哲学者・教育思想家）が提唱した有名な言葉です。

本ハンドブックが、本県の子どもたちが、英語を使って、自分の本当の考えや気持ちを伝え合うことができるよう、先生方が、毎時の授業を丁寧に実践しながら、新教材の意図や目標を確認し、中学年と高学年の指導について具体的な指導力を高めていくことができる一助となれば幸いです。

# CAN-DOリストを作成しましょう

## 1 CAN-DOリストとは

「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」の5つの領域ごとに、卒業時及び各学年修了時までには児童に身に付けさせる能力を、学習指導要領の各領域の目標に基づき、主に、言語を用いて「～することができる」の形で記した能力記述文を一覧表にしたものです。新学習指導要領全面実施に向けて、各学校において、「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を設定しましょう。

## 2 なぜCAN-DOリストの作成が求められているのか

「外国語（英語）を用いて何ができるようになるか」というコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指した指導と評価をするためです。

「外国語（英語）を使って何ができるようになるか」という観点から、児童に求められる学習到達目標（CAN-DO形式）を作成します。教科書・教材、児童の学習状況、授業時数等を踏まえながら、学校及び学年ごとの学習到達目標を、青森県版を参考に、できるだけ分かりやすく具体的に設定し、その目標に到達するための指導方法を工夫・改善することが期待されています。

## 3 CAN-DO形式の学習到達目標を作成することの効果とは

教師と児童がゴールを共有し、学習への見通しをもち、学習を評価する（振り返る）ことで主体的な学びを可能にします。

- (1) 「外国語（英語）を使って何ができるようになるのか」を前もって明らかにすることができる。
- (2) 外国語（英語）の学習の「ゴール」が明確になる。
- (3) 文字、語彙、文構造等の知識を活用してコミュニケーションを図ることができる。
- (4) 教員間で共通理解を図りながら指導に当たることができる。
- (5) パフォーマンステストなどを活用することによって「外国語（英語）を用いて何ができるか」という観点から評価することができる。

## 4 CAN-DOリストの役割とは

「ゴールを示すこと」と「そのゴールへの到達度を確認」する役割がCAN-DOリストに求められます。

- (1) 「何ができる」ようになるかを知る－到達目標としてのCAN-DOリスト
- (2) 「どれくらいできる」ようになるかを知る－自分の学びの位置を確認する判断基準としてのCAN-DOリスト
- (3) 「できるようになる」ために自ら学習する－自律的な学習者を育てるためのCAN-DOリスト

『青森県版小学校「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標』を参考に、自校版CAN-DOリストを作成しましょう。

下記のURLから『青森県版小学校「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標』をダウンロードすることができます。

<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/sassi.html>

また青森県版や自校版を活用して、児童が自分の学びを振り返ることができる「児童用CAN-DOリスト」を作成することもできます。

# 青森県版 小学校外国語活動・外国語科「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標

育てたい児童像	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を身に付けた児童。
卒業時の学習到達目標	<p>(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。</p> <p>(2) コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりすること、聞いたり話したりすることを伝え合うことができて、自分の考えや気持ちなどを伝えることができる。</p> <p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。</p>

5つの領域ごとの卒業時の学習到達目標				
	聞くこと	読むこと	話すこと(やり取り)	書くこと
ア	ゆつくりはつきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる。	活字で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができる。	基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができる。	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。
イ	ゆつくりはつきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができる。	音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる。	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。	自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。
ウ	ゆつくりはつきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができる。		自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや基本的な表現を述べたり、それらに応じたりすることができる。	
学年	聞くこと	読むこと	話すこと(やり取り)	書くこと
ア	ゆつくりはつきりと話されれば、5～8文程度の自分のことや身近で簡単な事柄(第三者のこと、思い出、将来のこと、町や文化など)について、具体的な情報(季節や場所、数字などを)を聞き取ることができる。	活字で書かれた文字の形の違いを識別し、身の回りのものに記されている大文字及び小文字を見、その名称を正確に発音することができる。	買い物、食事、道案内、旅行などの場面で、基本的な表現を用いて指示、依頼をし、それらに応じたり、断ったりするやり取りが複数回できる。	ア 文字の読み方が発音されるのを書いて活字の大文字、小文字を書くことができる。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。
イ	ゆつくりはつきりと話されれば、5～8文程度の日常生活に関する身近で簡単な事柄(行きたい場所、してみたいことなど)について、具体的な情報(季節や場所、数字などを)を聞き取ることができる。	イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる。 ※指示物、パンフレット、絵本などの言語外情報を併せて示された語句や表現から必要とする情報を得たり、その意味を推測したりする。	イ 自分や他者のこと(趣味や得意なことなど)について、聞き手に分かりやすく伝わるように、内容を選んだり順番を決めたりするなど整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	イ 自分のごことや身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用い、自分が表現したい内容のものに置き換えて書くことができる。(置き換える文や語句は例示する)
ウ	ゆつくりはつきりと話されれば、5～8文程度の日常生活に関する身近で簡単な事柄(自己紹介、人物紹介、過去の話やしたいことなど)について、短い話の概要を捉えることができる。		ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄(好きなこと、もの、持ち物など)について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝えたり、それらに応じたり断ったりすることができる。	
6	ア 文化などについて、具体的な情報(季節や場所、数字などを)を聞き取ることができる。	ア 活字で書かれた文字の形の違いを識別し、大文字及び小文字を見て、その名称を発音することができる。	ア 初対面の人とあいさつや自己紹介した時、買い物、食事、道案内、旅行などの場面で、基本的な表現を用いて指示、依頼をし、それらに応じたり断ったりすることができる。	ア 大文字、小文字を正確に書き写すことができる。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。
イ	ゆつくりはつきりと話されれば、視覚的な情報を手掛かりにするなどとして、3～5文程度の自分のことや身近で簡単な事柄(好きなことや得意なこと、誕生日、時刻や値段など)について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる。	イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる。 ※指示物、パンフレット、絵本などの言語外情報を併せて示された語句や表現を識別する。	イ 自分のごことや身近で簡単な事柄(食べ物、着る物、遊びなど)について、自分の考えや気持ちを伝えたり、それらに応じたり断ったりすることができる。	イ 自分のごことや身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用い、自分が表現したい内容のものに置き換えて書くことができる。(置き換える語句は例示する)
ウ	ゆつくりはつきりと話されれば、視覚的な情報を手掛かりにするなどとして、3～5文程度の日常生活に関する身近で簡単な事柄(行きたい場所、してみたいことなど)について、具体的な情報(季節や場所、数字などを)を聞き取ることができる。		ウ 自分のごことや身近で簡単な事柄(食べ物、着る物、遊びなど)について、自分の考えや気持ちを伝えたり、それらに応じたり断ったりすることができる。	
5	ア 文化などについて、具体的な情報(季節や場所、数字などを)を聞き取ることができる。	ア 活字で書かれた文字の形の違いを識別し、大文字及び小文字を見て、その名称を発音することができる。	ア 初対面の人とあいさつや自己紹介した時、買い物、食事、道案内、旅行などの場面で、基本的な表現を用いて指示、依頼をし、それらに応じたり断ったりすることができる。	ア 大文字、小文字を正確に書き写すことができる。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。
イ	ゆつくりはつきりと話されれば、視覚的な情報を手掛かりにするなどとして、3～5文程度の日常生活に関する身近で簡単な事柄(好きなことや得意なこと、誕生日、時刻や値段など)について、具体的な情報(季節や場所、数字などを)を聞き取ることができる。	イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる。 ※指示物、パンフレット、絵本などの言語外情報を併せて示された語句や表現を識別する。	イ 自分のごことや身近で簡単な事柄(食べ物、着る物、遊びなど)について、自分の考えや気持ちを伝えたり、それらに応じたり断ったりすることができる。	イ 自分のごことや身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用い、自分が表現したい内容のものに置き換えて書くことができる。(置き換える語句は例示する)



学年	聞くこと	読むこと	話すこと(やり取り)	話すこと(発表)	書くこと
5	ウ ゆっくりはっきりと話されれば、視覚的な情報を手掛かりにするなどして、3～5文程度の日常生活に関する身近な事柄(自己紹介や学校生活など)について、短い話の概要を捉えることができる。		ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄(好きなこと、もの、持ち物など)について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、短い会話を続けることができる。	ウ 身近で簡単な事柄(学校生活や地域に関することなど)について、伝えようとする内容を聞き手に分かりやすく整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとすることができる。	
評価方法	授業における活動 ワークシート 振り返りカード	授業における活動 ワークシート 振り返りカード	授業における活動 ワークシート 振り返りカード	授業における活動 ワークシート 振り返りカード	授業における活動 ワークシート 振り返りカード

**4 学年時の学習到達目標**

(1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。  
(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を身に付けている。  
(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。

5つの領域ごとの卒業時の学習到達目標					
	聞くこと	読むこと	話すこと(やり取り)	話すこと(発表)	書くこと
ア	ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取ろうとする。		基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりしようとする。	身の回りの物について、人前で実物を見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。	
イ	ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味を分かろうとする。		自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとする。	自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。	
ウ	文字の読み方が発音されるのを聞いた際にどの文字であるかを分かろうとする。		サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり質問に答えたりしようとする。	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。	

学年	聞くこと	読むこと	話すこと(やり取り)	話すこと(発表)	書くこと
4	ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句(好きな色や食べ物、着ている服、持ち物など)を聞き取ろうとする。 イ ゆっくりはっきりと話された際に、イラストや写真などを手掛かりとして、身近で簡単な事柄(よく知っている人や物など)に関する基本的な表現の意味を分かろうとする。 ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかを分かろうとする(大文字・小文字)。		ア 相手に配慮しながら、基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりしようとする。 イ 相手に配慮した上で、自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝え合おうとする。 ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり、2～3語の文で答えたりして会話を継続しようとする。	ア 身の回りの物(文房具、果物、飲食物など)について、人前で実物、イラスト、写真などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。 イ 自分(好きなこと、好みの場所、学校・教室など)について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。 ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄(曜日や時刻、場所など)について、人前でカレンダーなどの具体物を見せながら、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。	
3	ア 繰り返し、ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句(好きな色や食べ物、着ている服、持ち物など)を聞き取ろうとする。 イ 繰り返し、ゆっくりはっきりと話された際に、話し手の顔の表情や身振り、イラストや写真などを手掛かりとして、身近で簡単な事柄(よく知っている人や物など)に関する基本的な表現の意味を分かろうとする。 ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかを分かろうとする(大文字)。		ア 表情やジェスチャーをつけて相手に伝わるように工夫しながら、基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりしようとする。 イ 相手に伝わるように工夫した上で、自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとする。 ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり、答えの中心となる語や、2～3語の文で答えたりしようとする。	ア 動物、身体の部位、状態・気持ちなどについて、人前でイラスト、写真などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。 イ 自分や友達の名前の頭文字について、人前でカードを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。	
評価方法	授業における活動 ワークシート 振り返りカード	授業における活動 ワークシート 振り返りカード	授業における活動 ワークシート 振り返りカード	授業における活動 ワークシート 振り返りカード	授業における活動 ワークシート 振り返りカード

# 明日の授業はこう創ろう !!

## 新学習指導要領に基づいた外国語活動・外国語科の授業

### 自分のことを伝え合う言語活動

◆場面設定に基づいた語彙・表現の導入  
Small Talk、Let's Watch and Think

「内容」を重視し、「類推」する力を育みましょう。

既習の語彙・表現を繰り返し使用する機会としましょう。

◆Let's Listen、Let's Play、Activity等の活動を活用しながら、指導者と児童、児童同士のやり取り

児童に自己決定・自己選択させましょう。

必要に応じて「練習」する時間を設けましょう。

### 【授業の流れ(例)】

- 1 挨拶
- 2 チャンツ・歌・ジングル
- 3 Small Talk  
指導者と児童（児童同士）でやり取りしながら
- 4 Let's Watch and Think  
指導者と児童（児童同士）でやり取りしながら
- 5 Let's Listen / Let's Play  
指導者と児童（児童同士）でやり取りしながら
- 6 Activity  
①デモンストレーション  
②指導者と児童（児童同士）でやり取り  
③自己決定・自己選択  
④予想  
⑤児童同士でやり取り（発表）  
【活動→中間評価→指導→活動】
- 7 Sounds and Letters、Let's Read and Write、Story Timeなど  
【高学年の「読むこと」「書くこと」の活動は最後】
- 8 振り返り・挨拶

**逆向き設計で単元や授業を計画しましょう。**

### 逆向き設計の授業づくり

- ① 単元末の児童の姿を明確にイメージし、その姿を細分化してスモールステップをつくる。
- ② 学びの流れやステップの難易度を考えながら、単元末（後ろ）から順に1時間ごとのまとめ・振り返りでの児童の姿を現在の実態に向けて設定する。
- ③ まとめ・振り返りでの姿に対し、それを実現するためのゴールや中間評価の視点を定める。
- ④ 1時間ごとの学びの流れに対して効果的な言語活動を組み込む。

### 【授業におけるClassroom English】

授業において、指導者は積極的に英語を使い、児童にとって質の高いインプットを与えるようにしましょう。その際、無理に流暢に話そうとするのではなく、ゆっくりはっきり話すようにすることが大切です。ただし、児童の困り感を拾う場面など、母語（日本語）による言葉がけが望ましい場面では柔軟に対応しましょう。

# 实践事例

---

## 聞くこと 外国語活動

「聞くこと」の言語活動は、全ての言語活動の始まりであり、土台です。そのため、デジタル教材の使用はもちろんのこと、指導者自身が積極的に英語を使い、児童が豊富に英語を聞くことができるようにすることが大切です。

活動においては、目的設定を大切にし、児童が楽しみながら、必然性をもって聞くことができるようにしましょう。

そして、単なる知識として言葉を与えるのではなく、児童の身近な生活やコミュニケーション場面と関連付けて語句や表現と出合わせましょう。そうした出会いが、積極的な言葉の活用や主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながります。

### 1 青森県版小学校「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（第4学年 ア）

ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句（好きな色や食べ物、着ている服、持ち物など）を聞き取ろうとする。

### 2 指導過程における **指導場面例** 【文部科学省作成指導事例より抜粋】

4年 Unit 2-Lesson 3 Let's play cards. 好きな遊びを伝えよう 3/4時間

**目標** 天気の違いに慣れ親しみ、好きな遊びについて尋ねたり答えたりして伝え合う。

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
	・挨拶		
3分	○天気について指導者の質問に答える。	・児童の答えやつぶやきに応じてIt's sunny / rainy / cloudy / snowy.と紹介する。さらに、Do you like sunny / rainy / cloudy / snowy days? と尋ね、児童と天気を話題にやり取りをすることで、天気表現に慣れ親しませる。	教師用カード（天気）
6分	【Let's Listen 3】 p.9 ・国名と天気を聞き取り、□に天気の色を描く。 No.1 : I'm in Japan. It's sunny here. No.2 : I'm in Egypt. It's sunny. No.3 : I'm in Greenland. It's snowy. No.4 : Hi, I'm in Canada. It's cloudy today. No.5 : I'm in Brazil. It's rainy. No.6 : I'm in Hawaii. It's sunny. It's so hot!	・場面設定の理解を深めるため、1度音声を聞かせ、聞き取れた国名を発表させる。児童の様子をよく観察し、音声を途中で止めたり、繰り返し聞かせたりして、□に天気の色を描かせる。 (p.9 Let's Listen 3の天気の色マーク参照) ・なお、ここでは、国名について深く扱わないこととする。 ・ほかにもどのような天気があるかと投げかけ、世界の天気予報を聞いてみようと呼びかけ、次の活動につなげる。 ◎天気を聞いたり言ったりしている。 〈行動観察・振り返りカード点検〉	デジタル教材 児童用テキスト



時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
6分	【Let's Watch and Think 2】 p.9	・ 天気を通じて世界への関心を高めることがねらいである。	デジタル教材
13分	○ 天気に応じた好きな遊びを教える。 ・ ペアになり、天気に応じて好きな遊びを提案したり答えたりして伝え合う。	・ ペアで好きな遊びを紹介し合い、sunny、rainy、cloudy等の天気の日に適したと思う遊びを互いに提案するよう言う。隣、前後、斜めで繰り返し行わせる。 ◎好きな遊びについて尋ねたり答えたりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉	デジタル教材 教師用カード (遊び、天気)
10分	【Let's Chant】 How's the weather? p.6 【Let's Sing】 p.6	・ 児童と一緒にチャンツを言ったり、歌ったりする。	デジタル教材 ワークシート (Unit 2-2~2-4)
5分	・ 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。	・ 児童の英語を使おうとする態度でよかったところについて称賛する。	振り返りカード
2分	○ 歌 Goodbye Song (3年 Unit 2) ・ 挨拶をする。	・ 児童と一緒に歌う。 ・ 挨拶をする。	デジタル教材

### ■ 効果的な「聞く」活動にするためのポイント

- 1 児童に「何だろう」「知りたい」という目的意識をもたせて「聞く必然性」を高めましょう。
- 2 指導者やALTが自分のことを語るなど、意味のある内容を繰り返し聞きかせ、ジェスチャー等の非言語の要素を手がかりにしながら、「類推」できた（なんとなく分かった）という喜びや達成感を児童が得られるよう配慮しましょう。
- 3 自然な会話の中から児童にとって身近な場面を設定し、英文の内容を通して新しい語句や表現と出合わせましょう。

#### 【指導上の留意点】

- Let's Listen等の映像資料を扱う際には、「聞き取りテスト」とならないこと、逐語訳的に日本語に訳さないことなどに留意し、Small Talk を通して意味のあるやり取りを行い、児童が新しい表現と出合う場面を工夫しましょう。
- 映像資料については、1回目は全体をまとめて、2回目は区切って聞かせるなど、聞かせ方を工夫しましょう。

## 聞くこと 外国語科

高学年においても、自分のことや学校生活など、身近で簡単な事柄を取り扱い、ゆっくりはっきりと話される英語を聞くことができるようにすることが大切です。

児童は、中学年の外国語活動において、「聞くこと」の活動に取り組んでおり、簡単な語句や基本的な表現を聞くことについて慣れ親しんでいます。5つの領域の中で土台となる領域が「聞くこと」であることを踏まえ、どの児童も自信をもってこの活動に取り組むことができるよう、聞かせる事柄や聞かせる英語の速さに留意しましょう。

### 1 青森県版小学校「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（第5学年 イ）

ゆっくりはっきりと話されれば、視覚的な情報を手掛かりにするなどして、3～5文程度の日常生活に関する身近で簡単な事柄（好きなことやできること、誕生日、時刻や値段など）について、具体的な情報（季節や場所、数字など）を聞き取ることができる。

### 2 指導過程における **指導場面例** 【文部科学省作成指導事例より抜粋】

5年 Unit 5-Lesson 5 She can run fast. He can jump high. できること 5/8時間

**目標** 自分や第三者について、できることやできないことを聞いたり言ったりすることができる。また、文字には音があることに気付くことができる。

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
	○挨拶		
5分	○【Small Talk】 有名人の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有名人について話す。</li> <li>※本時において児童に期待する姿のモデルを示す。</li> </ul>	紹介する有名人の写真
	<p><b>【Small Talk 例】</b> Today, I have a picture of someone. He is an athlete. Do you know the word "athlete"? He is a sport player. Who is he? Ohtani Shohei? Ishikawa Kasumi? Maybe. I give you 3 hints. Hint No.1. He can jump high. Hint No.2. He can turn very well. Do you know him? Any ideas? Hint No.3. He was in the Olympics in Brazil. Who is he? The answer is ... Uchimura Kouhei. I like him very much. He is very cool.</p> <p>○○san, good job. (ヒントの途中ですでに当てていた児童を褒める。)</p>		
23分	<p>【Let's Watch and Think 2】 p.38</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の2人の会話を聞いていたさとしが、その情報をまとめながら he/she を使って2人を紹介する映像を含む「通し視聴」し、分かったことを誌面に記入する。</li> </ul> <p>○指導者とやり取りをして、答えを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の続きで、映像を視聴するが、今回は前回より長めであることを告げる。実態に応じて、繰り返し視聴させる。</li> <li>・映像資料のさとしの話を聞いて分かったことを誌面に書くように指示する。</li> <li>・書いたことをやり取りしながら確認する。</li> </ul>	

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
7分	○Who is he? Who is she? • he/sheを使って紹介された校内教員について、それが誰かを予想して答える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 取り上げた6名の校内教員ができること、できないことなどをhe/sheを使って児童に聞かせる。児童にどの先生のことかを考えさせ、答えさせる。</li> </ul> ◎視覚的な情報をもとに、相手が話している内容を聞き取っている。 〈行動観察・ワークシート点検〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 答え合わせの際には、再度 he/sheを使って、できること・できないことを話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 校内教員の顔写真</li> </ul>
5分	【Let's Chant】 She can run fast. He can jump high.のチャンツを言う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 児童の様子を見ながら、スピードやオプションを選ぶ。</li> <li>• 児童のモデルになるようにチャンツを言う。</li> <li>• 映像とともにチャンツを流しながら、児童が内容を推測したり理解したりできるようにする。</li> </ul>	デジタル教材
5分	○本時の活動を振り返る。 • 本時のねらいを全体で確認しながら振り返りカードに記入する。  • 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本時のねらいに照らして児童を称賛する。</li> <li>• 挨拶をする。</li> </ul>	振り返りカード

### ■ 効果的な「聞く」活動にするために・・・

表情豊かに伝えたり、ジェスチャーを活用したりすることにより、児童が英語を聞いて理解する手助けとなります。

ゆっくりはっきり話すとともに、児童の状況を的確に捉えて繰り返し聞かせたりすることも大切です。

また、児童と聞いた内容を確認するときには、単なる答え合わせとするのではなく、やり取りを通して内容を確認し、少しでも聞き取れたことを称賛し、自信をもたせるようにしましょう。

## 話すこと（やり取り） 外国語活動①

第5・6学年に設定されているSmall Talkでは、児童の実態に応じて第3・4学年から取り組みましょう。この活動を通して、児童の本当の考えや気持ちを話す機会を充実させましょう。Small Talkは既習語句や表現を繰り返し活用したり、対話を続けたりする学習活動を通して、互いの心を通わすことの大切さを児童に意識させたり、その楽しさを実感させたりすることができる言語活動です。

授業における言語活動の中心として取り組みましょう。

### 1 青森県版小学校「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（第3学年 ア）

表情やジェスチャーをつけて相手に伝わるように工夫しながら、基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりしようとする。

### 2 指導過程における **指導場面例** 【小学校英語教育推進リーダー実践事例】

3年 Unit 6-Lesson 1 ALPHABET アルファベットとなかよし 1/5時間

**目標** 自分の知っているアルファベットや、他の人が知っているアルファベットを教え合うことで、アルファベットの大文字の読み方を知る。

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
1分	○挨拶をする。	・全体に挨拶し、数名の児童に個別に質問する。	
7分	【Let's Watch and Think】 ・デジタル教材を視聴し、町の中にどんな店があるかを発表する。	・児童の洋服や持ち物のアルファベットを探す。 T: You have "A" in your shirt. Let's Find alphabet in the town.	デジタル教材 テレビ
10分	○友だちと協力しながら担当のアルファベットを知る。 ○3つのグループに分かれてアルファベットの読み方を知り、言えるように練習する。 A: This is ~. That's right.	アルファベットの読み方を知ろう。 ・後で違うグループの人に自分が知ったアルファベットを教えることを伝える。 ・各グループに読み方を知らせる。	担当のアルファベットを書いたポスター
18分	○グループ活動で知ったアルファベットを教え合う。 ・各グループから1名ずつ集まり、未知のアルファベットを学び合う。 ・覚えるのが難しいアルファベットに印を付ける。 ・分からないときは教え合う。	・VBNMZについて正しい発音を教える。 ・ワールドカフェ方式の対話活動を取り入れ、互いに未知である内容を伝え合うことによって、相手が知っているアルファベットの読み方に興味をもつようにする。 ・児童を観察して、難しさを感じているところを把握する。	全部のアルファベットのポスター

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
	A:Let's start. A:It's your turn. B:Oh.My turn,OK. A:This is "A". B:That's right. A:This is "V".(ブイと発音したとする) B:Close.This is "V". A:I got it!This is "V". That's right!	◎アルファベットに興味をもち、進んで覚えようとしている。 〈行動観察・振り返りカード分析〉	
5分	○難しいアルファベットについて気付いたことを発表する。 ・NとMが分かりにくいです。 ・Cの発音の仕方が難しい。 ・VとBの違いが分からない。 ・Wの読み方が難しい。 ・Zを「ズイー」と読むことを初めて知った。	・児童が達成感を得られ次の学習への意欲につながるように、観点を設定して振り返りをさせる。	
4分	○本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の【やり取り】の中でよかった点を大いに賞賛する。 ・挨拶をする。	カード

### ■ Small Talkの進め方例

- ① 指導者と児童で簡単なやり取りをしましょう。
  - 話題の提供、言い出し方の提供
    - ※ティーム・ティーチングでは、指導者同士がSmall Talkを行うことも有効です。
- ② 児童と児童でやり取り→まずはやらせてみましょう。
- ③ 指導
  - ①みんなでどのように表現すればよいか考え、共有しましょう。
  - ②言えなかったことを、既習表現に結び付けられるようヒントを出しましょう。  
「何か言えなくて困ったことはありませんでしたか？」
- ④ 相手を替えて児童と児童でやり取り  
→既習表現を活用させましょう。



## 話すこと（やり取り） 外国語活動②

Let's Chantや歌及びジングル等で、英語の音やリズム、イントネーションのインプットを十分行い、次の活動に円滑につなげるためにもSmall Talkを活用しましょう。

指導者が自分のことを話して、児童の興味・関心を高めたり、児童を巻き込み、児童に尋ねて答えさせたりして、既習の語句や表現に慣れ親しませましょう。

【Small Talkのタイプ1：単元ベース】

本時や単元の最終的な姿（Activity）を見せて、本時のねらいを明確にするタイプ

【Small Talkのタイプ2：定着ベース】

既習の表現を使って、指導者と児童、児童どうしでやり取りして定着を図るタイプ

### 1 青森県版小学校「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（第4学年 イ）

相手に配慮した上で、自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝え合おうとする。

### 2 指導過程における **指導場面例** 【小学校英語教育推進リーダー実践事例】

4年 Unit 6-Lesson 2 Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう 2/2時間

目 標 相手に配慮しながら、相手の文字について伝え合おうとする。

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
1分	・挨拶をする。	・挨拶をする。	
2分	【Let's Chant】 Alphabet Chant p.23	・児童と一緒に歌う。	デジタル教材 アルファベット小文字カード（教師用）
3分	<b>Ping-pongストーミング</b> ・代表2名が前に出て教師が操作するボールのラリーをする。打つタイミングでアルファベットを"a"から順に言う。	・Small Talkと実演を通してやり方を理解させる。 教師が操作するボール（指し棒に取り付けたもの）がラケットに到達するまでに次のアルファベットを言えなくなったら負けであることなど。	卓球ラケット×2 ボール（指し棒に取り付けたもの）
5分	<b>Writing on Back</b> ・班ごとに1列になる（計6列できる） ・一番後ろの児童が前の児童の背中に教師から支持されたアルファベットを指で書く。伝言ゲームの要領でそれを次、また次へと続けていき、先頭の児童が最後に黒板へ書く。	・スタートする児童へのアルファベットの指示。 ・指示するアルファベットは、"h"と"n"、"q"と"d"、"a"と"u"など、違いをはっきり書かないと誤認されやすいものの中から出題する。	アルファベット小文字カード（教師用）
7分	<b>Find ABC</b> ・新聞の中からアルファベットを見つけ、見つけたアルファベットに赤丸をつける。	・各班に新聞1部を配る。 ・新聞の中からアルファベット5文字を見つけるよう指示する。早く終えた班の勝ち。 ・紙面から5文字見つけているか、終わった班を確認し、称賛する。	新聞

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
22分	<p>【Activity 2】 p.25</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テキストの10色から好きな色を選び、ペアになって文字について尋ね合い、相手が選んだ色を当てる。</li> </ul> <p>[Pattern A]</p> <p>A:What's my favorite color? Please guess. B:OK. Do you have a "b"? A:No,I don't. I don't have a "b". B:Do you have a "p"? A:Yes,I do. I have a "p". B:Do you have a "i"? A:Yes,I do. I have a "i". B:I got it ! "pink." A:That's right. I like pink.</p> <p>[Pattern B]</p> <p>A:What's my favorite color? Hint no.1. I have 4 letters. Hint no.2. I have a "b". Please guess it! B:Let me see. Do you have a "u"? A:Yes,I do. I have a "u". B: I got it ! "blue." A: That's right. I like blue.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Small Talkを通して、児童の好きな色についてやり取りし、活動のイメージを示す。</li> <li>[やり取り]の例として、デジタル教材の「あやめ」と「れん」の会話を聞かせる。</li> <li>前時【Activity 1】で練習した"Do you have ~?"などの表現を想起させる。</li> <li>慣用表現"I got it." "Let me see."や、"Umm"などを積極的に使いながらできるだけ沈黙が続かないよう促す。</li> <li>はじめは隣の児童とペアになって行い、2回目以降は相手を変えて行う。</li> <li>2回目以降はレベルを上げる工夫として当てる側の質問の回数を2回までとする。</li> <li>この活動に慣れてきたら、当てる側が質問するだけでなく、出題者がヒントを出す形式でもやりとりさせる。</li> </ul> <p>◎相手に配慮しながら、アルファベットの文字について伝え合っている。 〈行動観察・振り返りカード点検〉</p>	デジタル教材 児童用テキスト
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。</li> <li>挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の[やり取り]の中でよかった点を大いに称賛する。</li> <li>挨拶をする。</li> </ul>	振り返りカード

### ■ 「児童とやり取りしながら学ばせる」指導を大切にしましょう

指導者の中には、自身の英語力や専門性に不安を抱いている方がいると思われます。まずは、指導者も英語に慣れ親しみ、意欲的に授業に臨むことが大切です。

また、外国語活動・外国語科の授業で大切なことの1つは、児童とのやり取りの中で語句や表現等を理解させることです。他教科等の授業で実践されているように、児童とやり取りしながら、つぶやきを拾ったり、意見を引き出したりする指導を外国語活動・外国語科の授業でも行いましょう。

## 話すこと（やり取り） 外国語科

児童が間違えることを恐れずに英語を使おうとするためには、まずは指導者自らが「英語の学習では、間違えてもいいから英語を使おうとすることが大切だ」という雰囲気をつくるのが大切です。児童の発話の「内容」を重視しましょう。

指導者は学習者のモデルとなり、積極的に英語を話そうとしたり、ジェスチャー等を駆使しながら、自分の言葉でどうにかして伝えようとする姿を見せるのが大切です。

### 1 青森県版小学校「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（第6学年 イ）

日常生活に関する身近で簡単な事柄（食べ物、着る物、遊びなど）について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて、児童同士で伝え合うことができる。

### 2 指導過程における **指導場面例** 【小学校英語教育推進リーダー実践事例】

6年 Unit 1-Lesson 7 This is ME! 自己紹介 7/7時間

目標 今までに習った表現を使いながら、友達に自己紹介をしたり、聞いたりすることができる。

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
1分	・挨拶をする。	・全体に挨拶し、数名の児童に個別に質問する。	
5分	【Let's Chant】 When is your birthday?	・最初は教師と、次は児童だけ（歌有り）、最後は児童だけ（歌無し）と段階に分けてチャンツを言う。	デジタル教材
3分	・本時の活動について、ALTと教師のデモンストレーションを見る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTとデモンストレーションをする。</li> <li>・ワークシートに記入しながら質問する。</li> </ul> T: Hello. My name is ~. A: Hello. My name is ~. T: When is your birthday? A: My birthday is ~. When is your birthday? T: My birthday is ~. What food do you like? A: I like ~. What animals do you like? T: I like ~. What's your favorite sport? A: My favorite sport is ~. What color do you like? T: I like ~. What subject do you like? A: I like ~. What's your favorite color? T: My favorite color is ~. See you. A: See you.	ワークシート
10分	・聞き取れたことを発表する。	・Small Talkを通して、対話の内容についてやり取りする。	

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
17分	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介 &amp; インタビューをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の目を見ているか、適切に答えているかを観察しながら、アドバイスをする。</li> <li>◎友達に自己紹介をしたり、インタビューをしたりすることができる。〈行動観察〉</li> </ul>	ワークシート
4分	<ul style="list-style-type: none"> <li>フィードバックを受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上手に話をしていた人等を称賛する。</li> </ul>	
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶をする。</li> <li>本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りカードに本時の評価を記入させる。</li> <li>単元の最後なので、単元を通しての感想も記入するよう声かけをする。</li> </ul>	振り返りカード

### ■ 言語活動を通して指導しましょう

外国語の学習には繰り返しの反復練習も必要ですが、指導者から与えられた表現をひたすら復唱するなどの機械的な反復練習では、児童の学習意欲を減退させてしまうこともあります。英語は使っているものの、児童が自分の考えや気持ちを伝え合っていない活動は言語活動とは言えません。練習だけで授業が終わらないよう留意し、【活動→中間評価→指導→活動】の流れで言語活動を行いましょ

う。言語活動を繰り返し行うことで、児童だけでなく、指導者の英語力も向上させることができます。



## 話すこと（発表） 外国語活動

「話すこと（発表）」の段階は、それまでに慣れ親しんできた語句や表現を活用して課題を解決する体験の場となります。児童一人一人が相手意識・目的意識をもち、「話したい」内容を選択し、コミュニケーションすることや自分のことについて話すことの楽しさを実感させることが大切です。

事前にしっかり表現に慣れ親しませておくとともに、「正確さ」よりも「内容」を大切に、児童の「話そう」とする意欲や態度を認め称賛し、どの児童にも「話せた」という喜びや達成感を味わわせましょう。

### 1 青森県版小学校「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（第3学年 イ）

自分や友達の名前の頭文字について、人前でカードを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。

### 2 指導過程における **指導場面例** 【文部科学省作成指導事例より抜粋】

3年 Unit 6-Lesson 4 単元名 ALPHABET アルファベットとなかよし 4/4時間  
**目 標** 相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を伝えようとする。

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
5分	○挨拶 ○ABC song	<ul style="list-style-type: none"> <li>笑顔で雰囲気をつくり、挨拶をする。</li> <li>黒板にアルファベットの文字カードを貼り、子どもと一緒に歌う。</li> </ul>	教師用カード
10分	○線つなぎゲーム <ul style="list-style-type: none"> <li>指導者が言う大文字の読み方の順にその文字をつないでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>やり方について実演し、やり取りを通して理解させる。</li> </ul>	
18分	○自分の姓名の頭文字を集め、イニシャルカードを作成する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の姓名の頭文字を集めてイニシャルカードを作成する。</li> <li>文字カードを渡す役と、もらう役に分かれ、英語の名札を参考に、自分の姓と名前の頭文字に必要なカードをもらい、児童用テキストに貼る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>やり方について実演し、やり取りを通して理解させる。</li> </ul>	児童用カード（大文字）のコピー



時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
7分	<p>○自分の姓名の頭文字を 発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【発表例】</b> Hello, every one. I'm Aomori Ken . "A"and"K". Thank you.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教材を見せたり指導者がモデルを示したりして、児童に活動への見通しをもたせながら意欲付けを図る。</li> <li>デモンストレーションで使用する表現を確認し、隣どうして紹介し合う活動に慣れさせる。</li> <li>グループや学級全体で、もしくは自由に歩いて紹介し合うなど、学級や児童の実態に合わせて紹介の仕方を工夫する。</li> </ul> <p>◎相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を紹介している。(活動観察・発表・振り返りカード点検)</p>	
5分	<p>○振り返りカードに、会話の楽しさや新しい気づき、友だちのよいところ等を書き、発表する。</p> <p>○Goodbye song ○終わりの挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会話の楽しさや新しい気づき等を発表させ、称賛し合わせる。</li> </ul>	振り返りカード

## ■ 児童が発話するまでの流れ

### ① 言葉をインプットする段階

英語を指導する際に大切なことは、多くの質の高いインプットを与えることです。特に単元の1、2時間目は無理に発話を促さず、じっくりとインプットできる、必然性の高い聞く活動を行うようにしましょう。

### ② 模倣する段階

十分にインプットできた後は手本を模倣する段階に入ります。指導者の後に続いて発話させていく活動に取り組みましょう。しかし、この活動に終始することがないように留意することが大切です。

### ③ 自分でやってみる段階

自信をもって模倣できるようになってきたら、指導者と一緒に発話したり、児童だけで発話したりする活動に取り組みましょう。この場面で指導者が児童の発話状況を見取り、励ましたり、不十分なところを補足したりすることが大切です。

## 話すこと（発表） 外国語科（第5学年）

児童が身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを、聞き手に分かりやすく整理し、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにするためには、単元計画に基づいた準備が大切です。

そこで、児童にとって「身近で簡単なこと」について、「自分が伝えたい内容」をもたせ、それを伝えるために必要な表現を練習する授業を計画的に進めましょう。

相手意識や目的意識を明確にした活動を設定すれば、児童の「英語を話して伝えたい」という意欲を高めることにつながります。

### 1 青森県版小学校「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（第5学年 ウ）

身近で簡単な事柄（学校生活や地域に関することなど）について、伝えようとする内容を聞き手に分かりやすく整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。

### 2 指導過程における **指導場面例** 【小学校英語教育推進リーダー実践事例】

5年 Unit 6-Lesson 7 I want to go to Italy. 行ってみたい国や地域 7/8時間  
**目 標** 他者に配慮しながら、自分のお勧めの国について内容を理解し、伝えようとする。

#### ※単元計画

時	目 標
1	◆世界遺産や地域の特色についてまとまった話を聞いて、具体的な情報を聞き取るとともに、4線に国名を書き写すことができる。
2	◆行きたい国を聞いたり言ったりすることができる。国名を選んで4線に書き写すことができる。
3	◆どこの国に行きたいか尋ねたり答えたりできる。
4	◆お勧めの国について伝え合う。
5	◆お勧めの国について紹介することを整理し、伝え合うとともに、文字の音を推測しながら音声で慣れ親しんだ簡単な語を読む。
6	◆お勧めの国について紹介することを整理し、文字の音を推測しながら他者に伝える目的を持って書き写し、意味が分かる。
7	◆他者に配慮しながら、自分のお勧めの国について内容を理解し伝えようとする。（本時）
8	◆他者に配慮しながら、自分のお勧めの国について内容を整理し伝え合おうとする。

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
2分	○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全体に挨拶をする。</li> <li>• 既習の日付や天気、時間割等、も取り入れる。</li> </ul>	
5分	<p>【Jingle】 Country Jingle p.48 (p.78)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ジングルを言う。</li> <li>• ジングルに出てくる国以外にどんな国があるかみんなで考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ジングルを言わせる。</li> <li>• 児童には、ジングルの全体がわかり、文字と国旗(国名)を意識させるようにp.78を見せて言わせる。</li> </ul>	デジタル教材 アルファベット小文字(教師用カード)
5分	<p>【Small Talk】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 指導者の話を、反応したり、質問について考えたり答えたりしながら聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 行きたい国について話す。</li> <li>• 児童の発表と同様の形式を会話の中に取り入れる。</li> <li>• 一方的に話すのではなく、児童を会話に巻き込みながら話すようにする。</li> </ul>	
	<p>This is Japan. We live in Japan. Chris sensei is from the USA. Where is the USA? Yes. It's here. There are many countries around the world. Where do you want to go? Me? Canada. (写真を提示) I want to go to Canada. Look. It's beautiful! I want to go to Canada. I want to see the Rocky Mountains. I want to eat King Salmon. I want to buy maple syrup. Do you want to go to Canada, too?</p>		
23分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お勤めの国を紹介し合う。</li> <li>• ペアで紹介する側と聞く側に分かれて、互いのお勤めの国とその理由を伝える。</li> <li>• その時、どのように工夫すれば相手に伝わりやすいかを考えながら伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前時までに練習してきたことを確認し、クラスのいろいろな友達とペアになり、互いにお勤めの国を紹介させる。</li> <li>• 活動の途中で中間評価して、よいモデルを学級全体で共有し、ねらいに沿った活動にする。</li> <li>◎他者に配慮しながら、自分がお勤めの国について理由も含めて伝えている。(行動観察・振り返りカード)</li> </ul>	ワークシート 世界地図
7分	<p>【Sounds and Letters③】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• デジタル教材で、始まりの音が違う言葉(単語)を探して、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 3つの単語の音声のみを聞き、最初の音が何かを考えさせ、3つのうち違う音の単語が何かを考え、その単語がどれか答えさせる。</li> <li>• What's the first letter?と言い、最初の文字を確認する。</li> </ul>	デジタル教材 「教材どうぶご」 ※参考 バナナチャンツシリーズ『クイズでチャンツ』
3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○振り返り</li> <li>○挨拶</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本時のねらいに照らして児童の活動を称賛する。</li> <li>• 挨拶する。</li> </ul>	振り返りカード

• 教科横断的な視点から、発表用のカードは社会科や総合的な学習の時間等にも活用できるように準備することも効果的です。

■ 社会科—国旗クイズのために国旗を調べたり、選んだ国旗の国について言語や文化を調べる。

■ 総合的な学習の時間—選んだ国についてコンピュータで検索し、その国の写真や情報を集めて発表用のカードを作成する。

## 話すこと（発表） 外国語科（第6学年）

学習指導要領では、「目的や場面、状況等に応じて情報や自分の考え及びそれらを表現するためにどのような言語材料等を使用するとよいかについて思考・判断すること」が重要とされ、そのような営みにより、「主体的・対話的で深い学び」が実現すると明記されています。

本事例はその具体です。

### 1 青森県版小学校「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（第6学年 イ）

自分や他者のこと（趣味や得意なことなど）について、聞き手に分かりやすく伝わるように、内容を選んだり順番を決めたりするなど整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。

### 2 指導過程における **指導場面例** 【小学校英語教育推進リーダー実践事例】

6年 Unit 3-Lesson 3 He is famous. She is great. 人物紹介 3/4時間

**目標** 好きなものや欲しいものを表す文について、主語＋動詞＋目的語の語順を意識して言ったり聞いたりして慣れ親しむ。

#### ※単元計画

時	目 標
1	慣れ親しんだ語彙を使った紹介文を聞いたり見たりすることで、それらの文に慣れ親しむ。
2	好きなものやほしいものを表す文について、目的語に好きなものや欲しいものを入れながらその語順に気付く。
3	好きなものやほしいものを表す文について、主語＋動詞＋目的語の語順を意識して言ったり聞いたりして慣れ親しむ。【本時】
4	好きなものやほしいものを表す文を使って、人物を紹介するクイズを進んで作ろうとする。

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
2分	○挨拶をする。	・挨拶をする。	
5分	【Small Talk】 ・教師の好きなものや欲しいものなどについてやり取りをする。	・指導者が子どもに問いかける形でスモールトークを行う。	スモールトークに使用する小物
13分	【Let's Watch and Think】 ・p.22のデジタル教材を視聴し、内容を理解して話に合うように巻末の絵カードを置く。 ・デジタル教材の次は先生を題材にして考える。	※ここでのねらいは、答えを確認する過程で、繰り返し英語表現を聞かせることである。	デジタル教材 絵カード (教師用と児童用) ワークシート

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
15分	<p>【Activity】</p> <p>①自分のことについて、食べ物、好きなもの、欲しいもの、勉強する科目を自己決定しワークシートに絵カードを置く。</p> <p>②自己決定したものをワークシートに貼る。</p>  <p>ワークシートの右側には、授業の終わりに自分で選んだものを書き写せるスペースを設けた。</p>  <p>③教師と全体→ペア（隣、前後）→全体（歩き回って）の流れで行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを使って、これまでの活動を参考に絵カードを置く活動をさせる。教師は、一つずつ児童に確認しながら行う。</li> </ul> <p>自己決定の場を大切にすることが、意欲的な発表につながる。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートに貼らせる際に、変更したい児童は、変更してもよいと伝える。</li> <li>eat、like、want、studyの4つのうち、1つを付箋で隠し、相手に予想させながら活動させる。</li> <li>相手に伝える際にはワークシートを持ち、自己決定したものを一つ一つ指さしながら相手に伝えるよう伝える。</li> </ul>  <p>◎主語+動詞+目的語の語順を意識して言ったり聞いたりしている。〈行動観察〉</p>	
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>I eat/ like/ want/ study_ の中から、例にならって、四線に書き写す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Activityで自分が選んだものを書き写すように促す。</li> </ul>	ワークシート（前の活動の続き）
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。</li> <li>○挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数名に発表させ、児童のよかったところを認める。</li> <li>挨拶をする。</li> </ul>	振り返りカード

本事例の領域別目標は【話すこと（発表）】です。したがって、全体の前で発表できるとよいのですが、人数の関係や十分な活動量の確保といった点を考えて、全体での活動（歩き回る）という形態をとることも可能です。

相手を替えて発表する機会を設定したことにより、児童が「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる活動としてよい事例です。



## 読むこと 外国語科

「読むこと」の言語活動で読ませる英語は、音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現とすることに十分留意しましょう。

児童が主体的に読もうとする「学びに向かう力、人間性等」を育成するためにも、自身や仲間などの身近で簡単な事柄について、目的をもって推測しながら読む言語活動を設定するとともに、そのような活動に過度の負担を感じずに取り組むことができるよう、単元を通じて、毎時間、スモールステップを踏んだ指導を行いましょう。

### 1 青森県版小学校「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（第5学年 ア）

活字体で書かれた文字の形の違いを識別し、大文字及び小文字を見て、その名称を発音することができる。

### 2 指導過程における **指導場面例** 【文部科学省作成指導事例より抜粋】

5年 Unit 3-Lesson 6 What do you have on Monday? 学校生活・教科・職業 6/7時間

**目標** 時間割について伝え合う。

活字体の小文字を識別し、読むことができる。

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
2分	○挨拶をする。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。	
3分	【Let's Chat】 p.22	・児童の実態により、スピードを選ぶとよい。 児童と一緒に言う。	デジタル教材
25分	【Activity2】 p.24 ・前時に作成したオリジナル時間割を紹介する。	・理由も伝えるように促す。 ◎時間割について尋ねたり答えたりして伝え合っている。 〈行動観察〉	ワークシート

### ■ 「読むこと」の活動のポイント

児童が活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別することができるよう、丁寧で確実な指導が必要です。



時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
12分	<p>○アルファベット文字当てパズル（小文字） ○anzゲーム</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで児童用カード（小文字）1セットを用意し、最初にanzの3文字のみ間隔をあけて机の上に置く。3文字以外の小文字カードはシャッフルし、裏返して等分に配る。じゃんけんをして順番を決める。</li> <li>「七並べ」の要領で、a(後)…(前)n(後)…(前)zのカードを置くことができる。隣り合うカードのみしか置くことはできない。置く際には小文字を読む。全て並べ終えたら、全員でa～z、z～aの順に文字を読む。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デモンストレーションを行う。</li> <li>児童が十分にアルファベットに慣れるまで数回繰り返す。</li> </ul> <p>◎活字体の小文字を識別し、読んでいる。 〈行動観察、振り返り〉</p>	デジタル教材（教材どうぐばこ、Hi, friends! Plus、クイズ2） アルファベットカード
3分	<p>○本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 ○挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数名に発表させ、児童のよかったところも認める。</li> <li>挨拶をする。</li> </ul>	振り返りカード

## ■ 学習到達目標（第5学年 イ）について

音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現のおおまかな意味が分かる。

この「読むこと」の指導においては、以下の3点が重要です。

- 1 単元を通じて音声で十分慣れ親しんだ後、単元終末において取り組むこと
- 2 毎時間少しずつ取り組むこと
- 3 目的意識をもたせ、内容を推測させながら読ませること

### 【指導上の留意点】

- ◆以下の活動を、単元を通して複数の授業に繰り返し設定することが大切です。
  - 歌やチャンツなどで音声で十分に慣れ親しませる活動
  - 身近な場所にある看板や持ち物に記されている活字体で書かれた文字に意識を向けさせたりする活動

## 書くこと 外国語科

「書くこと」の言語活動で書かせる英語は、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現とすることに留意しましょう。また、児童が過度の負担を感じることをしないよう、段階を踏んで指導する必要があります。

「相手意識」と「目的意識」を児童にもたせ、音声で何度もやり取りした語句の中から、「自己選択」と「自己決定」させて「書き写す」活動に取り組みせましょう。

### 1 青森県版小学校「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（第5学年 ア）

大文字、小文字を正確に書き写すことができる。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。

### 2 指導過程における **指導場面例** 【文部科学省作成指導事例より抜粋】

5年 Unit 5-Lesson 6 She can run fast. He can jump high. できること 6/8時間

**目標** 音声で十分に慣れ親しんだ第3者についての簡単な語句を書き写すことができるようにする。

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
5分	○挨拶をする。 【Let's Chant】 p.35 Can you sing well? ・チャンツを言う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。</li> <li>本時のめあてと流れを児童と共に確認する。</li> <li>デジタル教材で、チャンツを視聴しながら、音声に合わせてチャンツを言う。</li> </ul>	デジタル教材
5分	【Let's Listen 3】 p.40 ・音声を聞いて、どの人物かを考え、番号を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物についてできることできないことを説明する音声をデジタル教材で聞かせる。</li> </ul>	デジタル教材 児童用テキスト
10分	○ Who is he? Who is she? p.40 ・ Let's Listen 3の登場人物クイズを出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進め方の例を示す。</li> <li>He can/She canの表現に慣れ親しませる。</li> </ul>	児童用テキスト
15分	【Activity 3】 p.39 ・先生ができることできないことを予想する。 ・ He / Sheの語句を書き写す。 ・誌面に動作絵カードを置いてできた文をペアで紹介し合う。 ・ワークシート (Unit 5-1, 5-2)を使ってインタビューの準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4時からの続きで、インタビューに行く先生のできることできないことを予想させる。</li> <li>デジタル教材【Activity 3】の誌面を画面に映し、He / Sheの書き方を示す。また、空書き・机書き・なぞり書きの順に書き写すよう指示する。</li> <li>画面上で、□に動作絵カードを移動させ、児童と一緒に文を言う。慣れてきたら、児童だけで言わせる。</li> <li>インタビューに行く準備をするように言う。</li> </ul> <p>◎He / Sheの語句を正しく4線のワークシートに書き写している。〈ワークシート〉</p>	デジタル教材 児童用テキスト ワークシート (Unit 5-1, 5-2)

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
5分	○Let's Read and Write ・デジタル教材で映し出された英文を音声について読み、例を参考に自分のできること、できないことをワークシートのHint Boxから語句を選んでそれらに○を付け、声に出して言う。	・デジタル教材を視聴し、音声についてI can swim. I can't run fast.を読むよう指示する。 ・例をよく見ながら4線のI can, I can'tをなぞり書きし、その後に自分の立場でできることできないことを、下のHint Boxから語句を選んで言うよう指示する。	デジタル教材 ワークシート
3分	○Sounds and Letters ・ワードサーチをする。	・ワークシートの32マスに書かれた小文字の中から、音を考えながらシート右ボックスにある単語を探して印を付けるよう言う。	ワークシート
2分	・本時の活動を振り返る。 ・挨拶をする。	・カードで振り返らせ、児童を称賛する。 ・挨拶をする。	振り返りカード

### ■「書くこと」の指導の在り方

「書くこと」においては、中学年でアルファベットの大・小文字に慣れ親しんだことを踏まえ、「書きたい」と児童が思える必然性のある場面を設定し、音声で十分慣れ親しんだ文字や内容について、なぞったり書き写したりさせます。

単元を通じて聞いて、話してから毎時間1文ずつ書き溜めていかせるようにしましょう。

アルファベット等を書かせる活動を繰り返す際においても、音声を伴って指導するとともに、児童に過度な負担をかけない工夫が必要です。

### ■「書くこと」につながるローマ字学習・アルファベットの識別

#### ■ 第3学年におけるローマ字学習・大文字の識別

外国語活動でアルファベットの大文字を取り扱うとともに、ローマ字学習では小文字を多く扱います。

ローマ字は英語ではなく、アルファベットで表記された日本語ですが、児童にとってその区別が難しいことも考えられます。

したがって、国語科のローマ字指導では、「日本語の音の子音と母音の組み合わせで成り立っている」ことを理解させた上（訓令式）で、より英語の音に近いヘボン式も指導しましょう。

子音と母音を切り離す練習をすることで英語特有の発音やつづりはローマ字で表せないことに気付かせることも大切です。

## 参 考 文 献

- ◆文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）
- ◆文部科学省 小学校学習指導要領解説 外国語活動編（平成29年7月）
- ◆文部科学省 小学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月）
- ◆文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）
- ◆文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月）
- ◆文部科学省 小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック（平成29年6月）
- ◆文部科学省 Hi, friends! 1
- ◆文部科学省 Hi, friends! 2
- ◆文部科学省 Let's Try! 1
- ◆文部科学省 Let's Try! 2
- ◆文部科学省 We Can! 1
- ◆文部科学省 We Can! 2
- ◆文部科学省作成新教材学習指導案例
- ◆初等教育資料 2019年 1月号
- ◆新潟県立教育センター 「小学校外国語科CAN-DOリストを活用したバックワードデザインによる授業づくりパンフレット」
- ◆京都府南丹市立殿田中ブロック小学校PRESENTS  
「小学校英語教育ハンドブック」
- ◆第15回全国小学校英語教育実践研究大会三重大会冊子



『小学校外国語活動・外国語科 実践ハンドブック』  
作成委員

高橋 圭	教諭	青森市立泉川小学校
柴田 さおり	教諭	青森市立造道小学校
中谷 卓生	教諭	中泊町立武田小学校
建部 裕	教諭	平川市立柏木小学校
秋田 久美子	教諭	三沢市立三川目小学校
川越 俊和	教諭	六ヶ所村立南小学校
阿部 絹枝	教諭	むつ市立第二田名部小学校
金入 照泰	教諭	八戸市立三条小学校
板谷 斉	教頭	三戸町立杉沢小学校
圓子 靖子	教諭	階上町立石鉢小学校
工藤 哲也	主査兼指導主事	青森市教育委員会
村元 治	指導主事	弘前市教育委員会
日向端 聖	副参事兼主任指導主事	八戸市教育委員会
梅津 知己	主任指導主事	つがる市教育委員会
船水 純子	指導主事	十和田市教育委員会
内山 浩晃	指導主事	三沢市教育委員会
佐藤 充	指導主事	むつ市教育委員会
畑山 元康	教育指導課長	東通村教育委員会
荒井 幸子	指導主事	中部上北広域事業組合教育委員会
石川 慎	指導主事	東青教育事務所
花田 圭	指導主事	西北教育事務所
山本 保子	指導主事	中南教育事務所
金澤 希代子	指導主事	上北教育事務所
猪口 優野	指導主事	下北教育事務所
川井 利之	指導主事	三八教育事務所
月足 正亮	指導主事	県総合学校教育センター
淋代 秀樹	指導主事	県教育庁学校教育課

小学校外国語活動・外国語科 実践ハンドブック

平成31年3月発行

発行者 青森県教育庁学校教育課

青森県青森市長島1丁目1番1号

電話番号 017-734-9895

FAX番号 017-734-8270